

一般社団法人ロボカップジュニア・ジャパン
平成29年度第4回理事会議事録

1. 日 時 : 2017年9月10日(日) 12:45~15:55

2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル内 1階 南館

3. 出席者

(1) 本人出席者 6名

高橋友一、今井俊二、島谷太、中島晃芳、野村泰朗、水野勝教

(2) 委任状提出者 1名

松原仁

(3) 理事以外出席者 7名

金田忠裕(監事)、蟬正敏(監事)、後藤修平(WGメンバー)、山下真(WGメンバー)、
前田正久(事務局長)、浅沼まり(事務局)、藤村晶子(事務局)

4. 議 事

1. 2017ロボカップ世界大会報告

- ・ 参加チームに対する事前講習会、成績
- ・ ボランティアの状況、世界大会と国内大会の運営
- ・ 世界大会にボランティアとして参加して

2. 2018ジャパンオープンについて

3. 2019年度以降の運営について

- ・ RCJJブロック構成のアンケート結果について

4. 議事録署名人の選定

5. その他

5. 資 料

資料1-1. RoboCup2017Nagoya 日本からの推薦チームへの事前講習会報告(案)

1-2. RoboCup2017Nagoya 日本からの推薦チーム一覧と成績

1-3. RoboCup2017Nagoya 日本からの参加チームのメンターミーティング報告

~~1-4. 2017年度世界大会参加チーム報告書案(仮題)~~

1-5. ボランティアの状況、世界大会と国内大会の運営について

資料2. 2018ジャパンオープン会場候補地 見取図

資料3-1. 電池ルール サッカー技術委員会からの提案

3-2. サッカー開催リーグ

3-3. 2017大会情報集計

3-4. ブロック構成についてのアンケート集計

3-5. ブロック構成についてのアンケート回答集

資料4-1. ノード新設申請について

4-2. ロボカップジュニア大垣市大会 企画メモ

6. 議事概要

(1) 議長の選出

①高橋代表理事が開会を宣言し、本総会は、定款第18条の規定を満足しており、成立していることを報告した。

(2) 2017ロボカップ世界大会報告

①野村理事より資料1-1、2、3に基づき、世界大会事前講習会・推薦チーム及び成績・メンターミーティングについて報告がなされた。事前講習会では模擬インタビューが特に好評であったこと、世界大会のチームの成績についてOCに個別に問い合わせをすれば詳細情報は開示してもらえること等の報告があった。また世界大会開催中に開催されたRepresentative Meetingで、開催国として、従来のロードマップと異なる年齢制限やチーム数等が決定された事とその最終決定時期が遅かったため不満や不信が生じた旨を発言したことが報告された。また、来年度世界大会の方針は、Asia Pacific2017で開催予定のTrustee Meetingで決められる予定であることが報告された。

②水野理事より資料1-5に基づき、名古屋世界大会ボランティアの状況・世界大会と国内大会の運営について説明があった。ボランティアについては、事前登録113名、現地での申出7名の合計120名であり、当初予定に190名に及ばなかったものの、大会を無事終了することができたのは、スタッフ一人一人のサポートによるものであるとの報告があった。また、世界大会でのOC・LOC・TCの役割と、国内大会においては技術委員会がOC・TCを兼任していること等が説明された。

(3) 2018ジャパンオープンについて

①前田事務局長より、2018ジャパンオープン開催候補地として検討を進めてきた和歌山市について報告があった。和歌山商工会議所・和歌山市・和歌山県が複数年度の開催の意向がある事、2018年3月30日(金)を設営日、3月31日(土)、4月1日(日)の2日間を開催日としての開催が可能であることが報告された。また、資料2に基づき会場候補地の詳細について説明がなされた。これを受け、2018ジャパンオープンを開催する事を確認し、今回の理事会をめぐりに開催委員会の立上げ、実行委員長の選任等を決定して進めていくこととなった。

②水野理事より、ジャパンオープンのエントリー手順について、次年度に向け改善点を検討する必要があると指摘があり、次回理事会までに小山氏と事務局で課題をまとめることとなった。

③水野理事より、Asia Pacificエントリーなど点から次年度以降ジャパンオープンの結果を英語表記でも公開してほしいとの要望が日本委員会からあったことが報告された。

(4) 2019年度以降の運営について

①中島理事より資料3-1に基づき、ジャパンオープンにおける電池の扱いについて報告があった。技術事項については技術委員で決定し、大会での運営条件については大会開催者が決定する事、電池チェックについては世界大会と国内大会で相違があっても国内大会では、安全教育の点で2016・2017のジャパン大会の方法で進める事を確認した。これはサッカーのみならず他のチャレンジでも同様とし、運営担当の理事から周知する事も確認された。

②中島理事より資料3-2に基づき、サッカー開催リーグについて説明があり、国内大会においては、2017ジャパンオープンと同様に、日本大会におけるプライマリ・セカンダリの区別せずに開催し、ルールは2017秋に決定したルールを実施、表彰状にもプライマリ・セカンダリの区別は記載しないこととする。世界大会のリーグでプライマリ・セカンダリがある時は、そのリーグへの選出の際に振り分けていく事になった。

また、ノード大会の時点でチーム編成に関する事項を明確にしておいてほしいという意見があったことを踏まえ、中島理事・水野理事で案をまとめブロック長に到達することとなった。

③中島理事より資料3-3に基づき、中島理事及び今井理事より資料3-4、3-5に基づき、先般ブロック長を対象に実施されたアンケートの結果について報告があった。これらを見据えた上で、今後のロボカップジュニア・ジャパンのブロック体制、ジャパンオープンへのチーム選抜数について、日本リーグは裾野を広げる事と、ワールドリーグは選出される基準を保証する事を基本にする方針を元に検討する事になり、次回理事会までに今井理事・中島理事・後藤氏が素案を作成、更に検討を重ねた上で、年内にブロック長に意見を求め、2018年総会審議、2019年度より新体制によるエリア編成の実施する方向で進める事になった。

(5) その他

①後藤氏より、資料4-1に基づき、岐阜ブロックにおける郡上ノード新設申請について報告があり、理事全員の了承を確認した。また資料4-2に基づき岐阜県大垣市での開催が予定されているロボカップジュニア日本リーグ選抜大会(仮称)について説明がなされた。

②高橋代表理事より、名古屋世界大会会場で開催されたSONY「Koov」の講習会について報告があった。今後、ジャパンオープン及び規模の大きなブロック大会においても同様なイベントをする事は、双方にとって効果的なのではとの提案があった。

③年会費改定については、次回理事会までに案をまとめることとなった。

④野村理事より、RoboCup Asia Pacific2017への参加は、既にRCJJ公式HPに掲載している通り、参加希望チームの責任で行うこと、また、RoboCup Asia Pacificの運営は現時点で未定で、あくまでも世界大会のRepresentativeとは別であるということが再度確認された。

⑤次回理事会は10月29日(日)に開催することとなった。

(6) 議事録署名人の選任

本日の議事録署名人として、今井俊二氏、及び中島晃芳氏にお願いすることとなった。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成29年9月10日

議 長 高橋 友一

議事録署名人 今井 俊二

同 中島 晃芳

